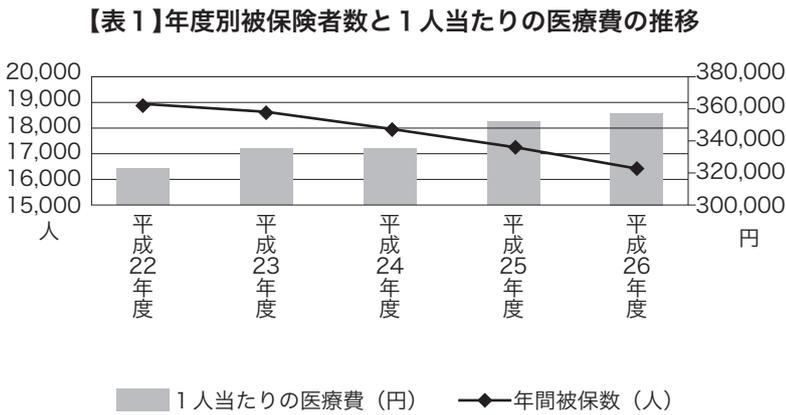


# 国民健康保険の医療費の現状

市町村が運営する国民健康保険（国保）は、地域の保険と位置付けられており、加入者の皆さんの相互扶助で成り立っています。ここでは、市の国保の状況を分析してお知らせします。

## ●医療費の推移

市国保の総医療費は、ここ数年60億円前後で推移しています。また、年間被保険者数は、「表1」のとおり平成22年度



は1万8882人でしたが、平成26年度には1万6363人と4年間で2500人以上減少しています。

一方、被保険者一人当たりの医療費は、平成22年度の32万4294円から平成26年度には35万8305円となり年平均3%のペースで増加しています。

## ●入院・入院外・調剤・歯科別の1人当たり医療費

入院・調剤・歯科では過去5年間ともに県平均より高い状況が続いています。入院では長期入院者の割合が多いこと、調剤ではジェネリック医薬品の利用割合が少ないことなどが考えられます。

ジェネリック医薬品を積極的に利用することや予防歯科に取り組むことで医療費の改善が期待できます。



## ●疾病別医療費の状況

市国保の疾病別医療費（入院＋入院外）で、上位を占めるものは、統合失調症、高血圧症、糖尿病、慢性腎不全と続きます。統合失調症は、長期入院の人が多いため、高額になると考えられます。

また、慢性腎不全は件数は少ないですが、人工透析により医療費が高額になっていると考えられ、その原因の約半分は糖尿病と考えられています。

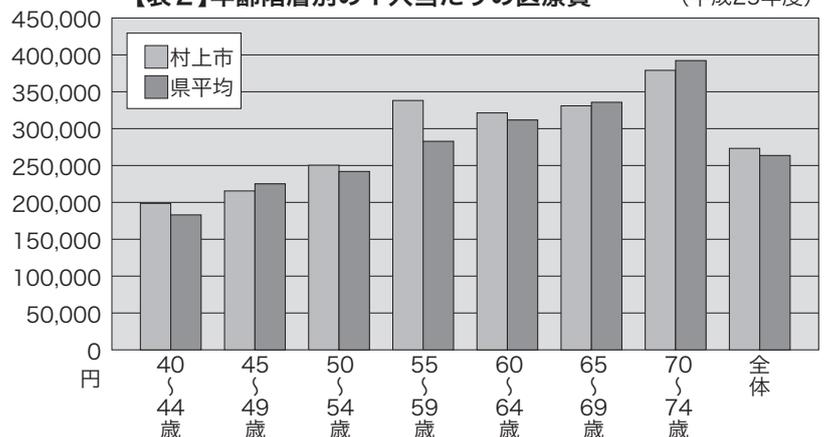
## ●年齢階層別に見ると

【表2】は、年齢階層別の1人当たり医療費を県平均と比較したものです。年齢が高くなるにつれて医療費は高くなり、55歳から59歳までの年齢層が、県平均より特に高くなっています。

## ●医療費を抑制するために

今後、医療費が増加すれば、被保険者の保険料も増加してしまいます。医療費を抑制するには、何よりも皆さんが「健康」であることが一番です。そのために一人ひとりが食事や運動、飲酒や喫煙などの生活習慣を見直し、自分の体は自分で守ろうという意識を持つことが重要です。

【表2】年齢階層別の1人当たりの医療費 (平成25年度)



市では、特定健診や保健指導、人間ドック助成事業や各種保健事業を行っています。これらの事業を積極的に活用して、健康増進を図りましょう。



## ●問い合わせ

保健医療課健康支援室  
53・2111 (内線263)